

「自立活動」学習指導案

A² [支援のための発達アセスメント] 小学部2段階（国語）の コミュニケーション指導

1. 日時 令和7年9月17日（水） 第4時限（11:35～12:15）
2. 場所 中学部第3学年 5組教室
3. 学部・学年・組 中学部 第3学年 5グループ 6人
4. 単元（題材）名 「おおきなかぶ」
5. 単元（題材）目標

学習指導要領：自立活動（コミュニケーション区分）の項目より

A（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること

- ・各々のコミュニケーション手段を使用して、相手に気持ちや意思を伝えられるようにする。
- ・自分に合う表現手段を使って、発話・発語のタイミングで指さしたり、他者への呼びかけを示す声を出したりできるようにする。

B（2）言語の受容と表出に関すること

- ・自分の気持ちを表現して、言葉のやりとりを楽しむことができるようにする。
- ・自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして適切なかわりができるようにする。

C（3）言語の形成と活用に関すること

- ・相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりすることができるようにする。
- ・人とのやりとりの回数を増やしたり、継続させたりする力を高められるようにする。

6. 生徒観 【略】

7. 教材観

授業形態としては、3つのコミュニケーション活動『身振り表現 ともよ』『どんな気分？』『おおきなかぶ』を行う。その中でも、『おおきなかぶ』を主要な活動とする。

『身振り表現 ともよ』では、目標に設定した項目（1）コミュニケーションの基礎的能力の育成、（3）言語の形成と活用を目的とし、歌詞の言葉に合った身振り手振りや身体を使って大きく表現する。教員が手本を前で行い、歌詞の言葉を体で表現することでフレーズや語彙を身につけるよう促す。（例：「つらいとき」という歌詞の言葉のタイミングで、“頭を抱える”動きをして、自然な流れで言葉と体の表現を合わせることができる。粗大運動の観点で、体を動かすことが得意な生徒が多いグループであるため、授業のはじめに体を大きく動かして、その後の活動に集中しやすくなるように設定する。

『どんな気分？』では、目標項目（2）言語の受容と表出を目的とし、発表者が順番に前に出て、他の生徒と対面になる形で行う。前に出た発表者以外の生徒が「どんな気分？」と声を合わせて発表者に聞き、発表者は「〇〇です。」と答える。発表者は、モニターに表示された（楽しい、眠たい、おなかすいた等）を選び、自分の今の気持ちを自分の表現方法で伝える練習を行う。

『おおきなかぶ』では、目標項目（1）～（3）を目的とした劇あそびを行う。本グループの生徒

はスムーズな発話をすることに課題のある生徒が多いことから、リズムのあるフレーズをとり入れた活動をする。「うんとこしょ、どっこいしょ」という言葉のリズムと掛け声の力強さを子どもたちが自分の身体のリズムやみんなの動きとともに感じられる教材である。みんなで物語を共有しながら、自分自身が表現主体となって自分なりのイメージで表現することが本グループの生徒たちにとって重要と考えている。

8. 指導観

『身振り表現 ともよ』では、前のモニターにダンス動画を映すことに加え、手本として教員が前で踊りながら次の振り付けを伝える。身振り手振りの見通しを立てて身体を使ったスムーズな表現を行うことができるように工夫する。

『どんな気分』では、言葉の受容と表出を行うために安心して発表できる環境をつくる。発表者と聞く生徒たちが対面になり、声をそろえて「どんな気分？」と聞くと、モニターにある気分の中から選び「〇〇です」と答える手本をはじめに見聞きすることで絵本のイメージを膨らませられるようにする。発表者が出てくる際に、今日のできた点や良かった点を1人ずつ伝えて振り返りをする。

本授業の主要な活動である『おおきなかぶ』では、「うんとこしょ」のリズムに合わせてかぶをひく場面はいす座位で並び、先頭がかぶの葉に見立てたタオルをひっぱりながらかぶをひく演技をするようにする。先頭より後ろの生徒は前に並ぶ生徒の肩を持ち、いす座位でひくことで姿勢が安定し、言葉のリズムと自分が引っぱる感覚を身体で感じやすくなると考える。かぶをひく前には、みんなでかぶをひくことに気持ちを向けられるように、言葉のリズムを壊さない形で「せーの」という掛け声を入れるようにする。「うんとこ」「どっこい」の部分は生徒たちと向かい合う教員が力強くひっぱり、「しょ」の部分で、みんなで力強く引っぱり返す動きができるように教員がサポートを行う。

本グループの生徒は、昨年度は絵本を使用した活動などは少なく、登場人物になりきったり、絵本にある出来事を自分で表現したりする機会がなかった。そのため本授業では自分でやりたい役を選び、心を込めて制作した衣装や被り物の小道具を扱うことで、自分の役を自分なりに表現し、受容してもらったり、見てもらったりすることでやりとりに楽しさを感じることをねらいとして指導を行う。

9. 単元（題材）の目標

A コミュニケーションの基礎的能力 (ア、イ)	B 言語の受容と表出 (ウ、エ)	C 言語の形成と活用 (オ、カ)
① 各々のコミュニケーション手段を使用して、相手に気持ちや意思を伝えられるようにする。	① 自分の気持ちを表現して、言葉のやりとりを楽しむことができるようにする。	① 自分の考えを伝えたり、相手の意図を受け止めたりすることができるようにする。
② 自分の行動に合った語彙を身につけられるようにする。	② 自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして適切な関わりができるようにする。	② 人とのやりとりの回数を増やしたり、継続させたりする力を高められるようにする。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全5時間、本時は第5時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1	・言葉に合う動きを体で表現する。 ・物語の掛け声や、やりとりを覚える。	・ともよダンス ・どんな気分？ ・絵本を読む ・物語を知る	・言葉に合う動きの見本を見える位置に示す。 ・物語の掛け声が合うように言葉かけする。	A① B① C①
2	1	・言葉に合う動きを体で表現し、自分の気持ちを伝える。 ・教員と受け答えをする。	・ともよダンス ・どんな気分？ ・絵本を読む ・動物の被り物を作る	・はさみを扱う際は、必ず生徒一人に教員一人がつく。 ・各々の手段を使って伝えられるように促す。	A① B① C①
	2	・言葉に合う動きを体で表現し、自分の気持ちを伝える。 ・物語の登場人物を確認する。	・ともよダンス ・どんな気分？ ・絵本を読む ・1人ずつ登場人物を思い出す	・絵の具を扱う際は、グループに分けて順番に行う。 ・物語の登場人物を視覚的に表示する。	A① B① C①
3	1	・言葉に合う動きを体で表現し、自分の気持ちを伝える。 ・自分のしたい役を教員に伝える。	・ともよダンス ・どんな気分？ ・絵本を読む ・役決めをする ・劇を行う	・自分のしたい役を選ぶように答えやすい二択などで聞き取りをする。 ・掛け声ややり取りを通して劇を最後まで行えたら称賛する。	A② B② C②
	2	・言葉に合う動きを体で表現し、自分の気持ちを伝える。 ・教員や友だちとやりとりや受け答えをする。	・ともよダンス ・どんな気分？ ・絵本を読む ・劇を行う	・自分のしたい役を選ぶように答えやすい二択などで聞き取りをする。 ・掛け声ややり取りを通して劇を最後まで行えたら称賛する。	A② B② C②

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- A 伝えたい発話や発語をするときに、その表現に合った体の動きを使うことができる。
- B 聞かれた質問を理解し、答えることができる。
- C 教員や友だちと継続的に対話することができる。

(2) 本時の評価規準

- A 自分に合ったコミュニケーション手段を使おうとしている。
- B 相手の話を聞き、自分のことを伝えようとしている。
- C 教員や友だちと持続して対話しようとしている。

(3) 本時で扱う教材・教具

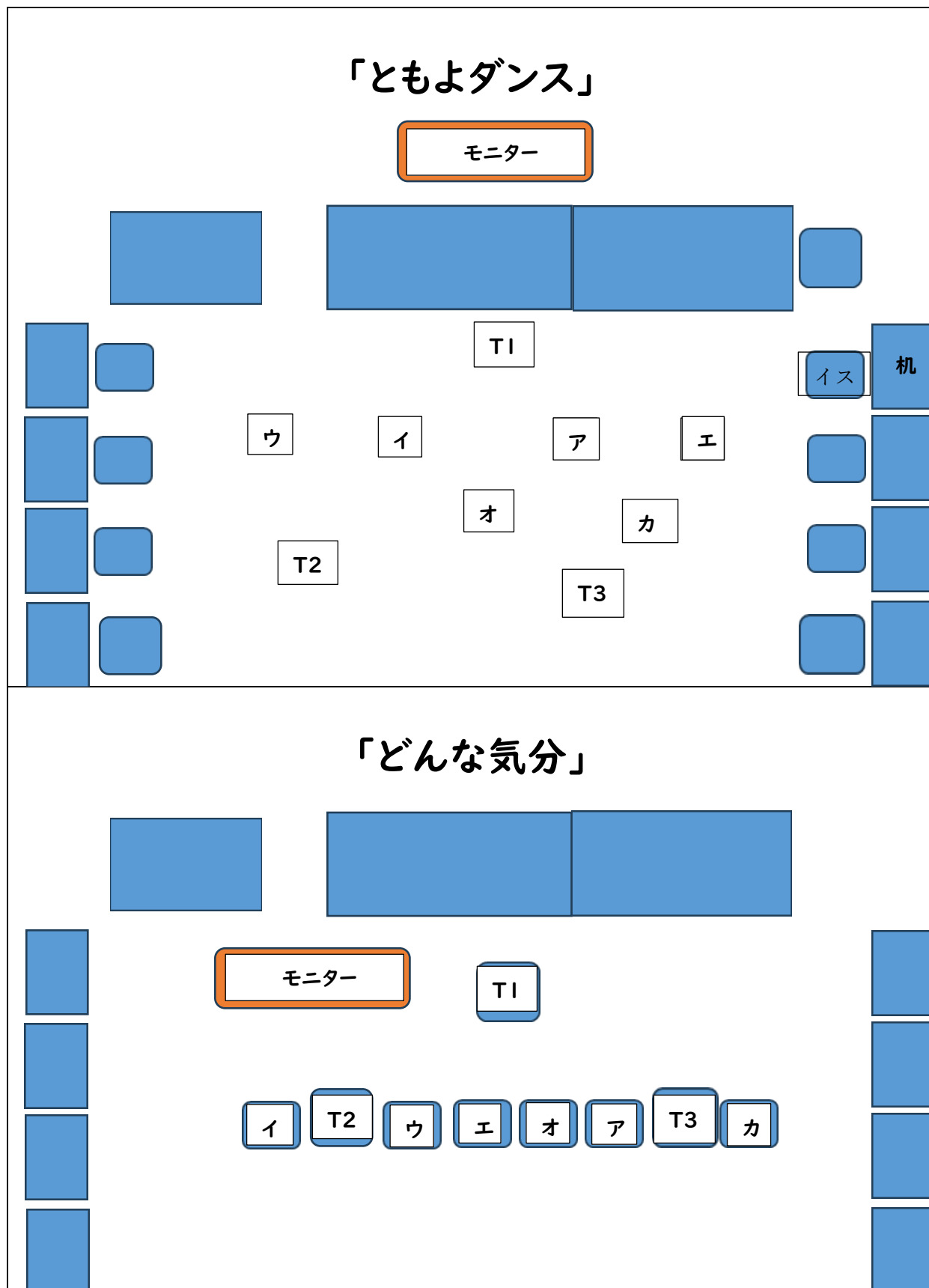
- ・モニター
- ・絵本「おおきなかぶ」
- ・登場人物の被り物
- ・かぶ

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 【 略 】

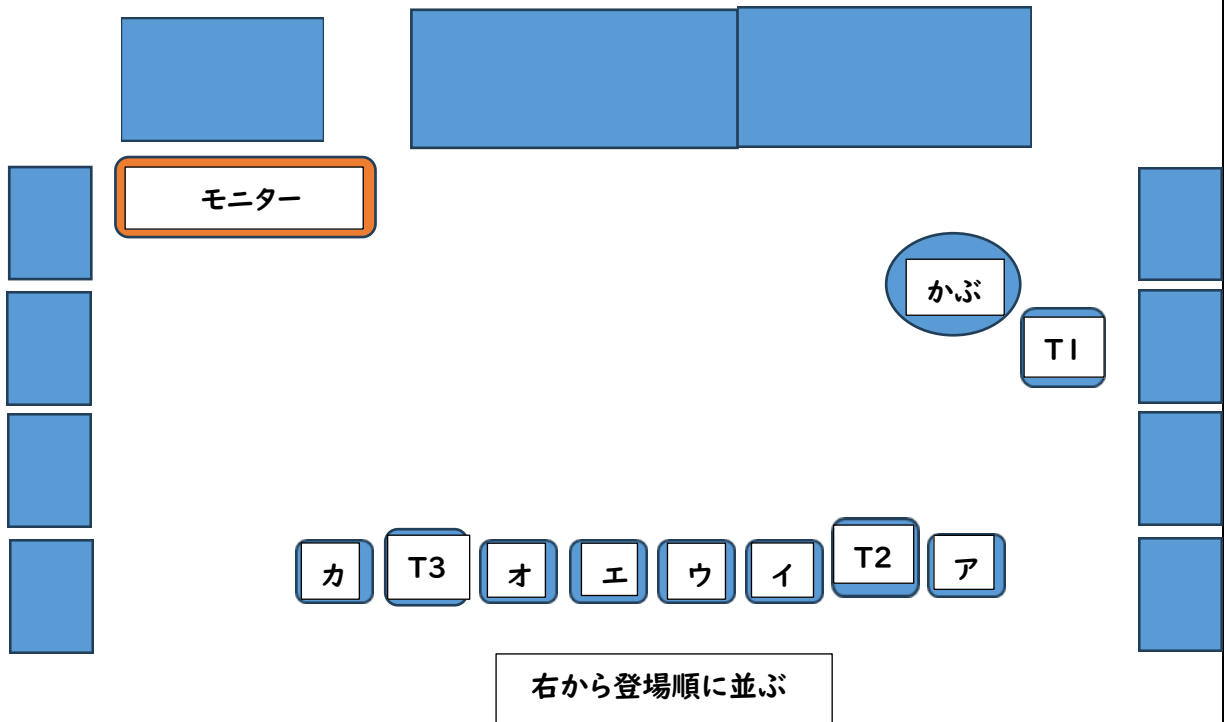
(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準
10分 導 入	○始めのあいさつ ○出席確認 ○『ともよ』 ・言葉に合った動きを表現する。 ・他の生徒と息を合わせて同じ動きをする。	・サイコロで日直決めをし、日直の生徒はみんなの前に出てきてあいさつをする。 ・出席確認は、教員が日直と一緒に1人ずつ顔を見て名前を呼ぶ。 ・ダンスが踊れる空間をつくるために、机といすを移動する。 ・手足が当たらないように、生徒同士の間に空間を確保する。	A① B①② C①
22分 展 開	○『おおきなかぶ』 ・絵本の読み聞かせを聞き、物語のイメージを膨らます。 ・やりたい役を自分で考えて選択し、それを教員に伝える。 ・みんなで息を合わせて掛け声をする。 ○『どんな気分？』 ・発表者に「今の気分」を問いかけ、発表者は相手に伝わるように自分の気持ちや気分を伝える。 ・自分のできた点などの振り返りの言葉を聞いて、自身で活動の振り返りを行う。	・自分のやりたい役がひとりで決められない生徒は教員と一緒に登場人物の絵を見ながら考える。 ・ナレーターは教員が行う。 ・全員の声がそろうように、「うんとこしょ」の前に「せーの」と掛け声を入れる。 ・自分の今の気分を言葉で伝えることが難しい場合は、モニターに映し出された様々な“気持ち”の中から指さして選ぶように促す。 ・発表する前に、1人ずつできるようになった点を教員から発表する。	A①② B①② C①②
3分 ま と め	○終わりのあいさつ	・日直が前に出てきて、あいさつをするよう促す。	A① B① C①

(6) 教室配置等



「おおきなかぶ」



「おおきなかぶ」

